令和6年度　認定こども園いくさと「関係者評価」

園　名　認定こども園いくさと

基本理念	一人ひとりを大切に、心豊かに、たくましく生きる子どもを育成する	
めざす子ども像	自然に親しむ子	・五感を通して豊かな感性を育てる。 ・自然体験を通して豊かな感情・好奇心・探究心・思考力・表現力の基礎を培う。
	友達を大切にする子	・人との関わりの中で、自主・自立心及び協調の態度を養う。 ・道徳心の芽生えを培い、お互いに認め合う仲間作りに努める。 ・言葉による伝え合いができるようにする。
	外で元気に遊ぶ子	・遊びを通して、学びに向かう力を育む。[熱中・挑戦・驚き・多様な発想・素直さ等] ・困難に立ち向かう力を育む。
教育・保育方針	・基本的生活習慣の定着を図り、健康な生活リズムを身につけ、乳幼児期にふさわしい生活を展開する。 ・五感を通しての学びを大切にし、生きる力の基礎となる意欲・心情・態度を養う。 ・一人ひとりの発達や育ちを大切にし、理解と受容、共感しながら、子どもにとって心豊かで安定した生活の場にする。 ・園小の連携を推進し、小学校への滑らかな接続を図る。 ・職員の資質・専門性の向上を図る。	

自己評価結果（達成状況）【A:達成している　B:概ね達成している　C:あまり達成していない　D:達成していない】

評価の観点	評価項目（取組内容）	取り組み（達成）の状況	達成状況	改善の方策（今後について）
園運営	○職員の資質向上 ・計画性のある研修の実施 ○組織体制の充実	○研修の充実を図った。 ・市教委主催の公開保育・若手保育教諭研修等の研修や、市・町保協の各研修に計画的に職員が参加した。外部講師も計画的に招聘できた。 ・オンライン・ハイブリッドの研修（県・市・町保協主催）にも振り分けて参加した。 ・研修での学びを午睡の時間や職員会（ホワイトボード、紙文書配布）で共有した。 ○報・連・相を適宜行い、職朝ノート閲覧、個人ケース活用等で、情報を共有し、円滑な組織運営に努めた。	B	・ オンライン研修も含め、自主的・意欲的に参加し、学んだことの共有の仕方をホワイトボード上のワンポイント報告も含めて、さらに工夫し、資質の向上に努めたい。 ・ 外部講師の招聘は例年並みとするが、園外研修参加者の還流の仕方を工夫し（ポイントを押さえた報告等）、充実させていきたい。 ・ 整備されたWIFI環境を活用し、月案・週案に係るPC作業の効率化も進めながら、保育・教育の質の向上に努めていきたい。 ・ 職員間の「対話」を基本として、「お互い様」の心と報告・連絡・相談を徹底する。
教育課程	○教育・保育課程の作成 ○指導計画の作成・反省 ○発達過程に応じた教育・保育 ○環境を通して行う教育・保育	○「こども基本法」「こども園教育・保育要領」に示されたねらい・内容を取り入れた編成を行った。 ○一人ひとりを大切にし、発達年齢に応じた教育・保育に取り組み、主体的に子どもたちが活動できる環境を整えるように努めた。 ○市教委指導主事招聘事業や保育巡回指導事業を園内研修に活用し、「エピソード記録」の取り組みを進めた。	B	・ 園児一人ひとりの育ちの過程や興味関心に基づいた関わりがもてるように、「みつめる」「追う」ことにこだわり、遊びや学びの過程の「見せる化」を一層充実させる。 ・ 各クラス運営の交流を活発化するために、「園児たちが主体的に関わる環境作り」に絞って交流に努める。 ・ 朝の時間や午後の時間における異年齢保育の課題と成果の共有化を探っていく。
子育て支援	○親子の育ち合いの場としての役割や機能の充実 ・すくすくひろば開設、子育て相談、講座等の開設	○「すくすくひろば」を感染防止に留意しながら、目標日数分実施できた。 ・他園との合同開催や講師招聘を行い、気になる家庭には電話をするなどして、子育ての悩み相談等に応じながら、計画的に開催できた。（100%が満足） ・登録園児への通信配布と、HPへの通信掲載、よい子ネット登録及び活用等により、園内での子どもたちの様子を伝えることができた。 ○「園内子育て支援委員会」により、1週間の給食のレシピや子育て情報の発信（毎月）を行った。	B	・ 「イベントのみ参加」型の登録者もあるが、氷上地域内の「すくすくひろば」同士の交流を今年度並みを目指していきたい。 ・ 通信のHP掲載や、よい子ネット活用を継続し、定例の「園内子育て支援委員会」開催と、給食レシピや子育て支援など内容発信の充実を図る。 ・ 園庭開放等、園内行事等との調整を継続していく。 ・ 今年度並みに関係機関との連携を図りながら、育児相談・保護者研修等の充実を図る。
安全管理 保健管理	○園舎の安全、安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の危機管理能力の向上 ・防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、健康診断、歯科検診の実施	○職員分担による安全点検を実施した（毎月）。専門業者による遊具点検を実施した（2年ごと）。 ○毎月避難訓練を実施した。（火事、地震、水害、不審者） ・時間帯、担当者、想定を工夫し、職員の共通理解を図った。 ・屋内消火栓使用訓練、通報訓練、バスのクラクション練習も分担して計画的に実施した。 ○事故報告書、ヒヤリハット報告書について普段からの活用を図り、昨年より細かな事象も報告し事故防止へ繋げた。 ○新型コロナ感染症防止対策等をはじめ、園児の健康管理に努めた。 ・「保健だより」の発行や、病欠・出停状況を発信することにより、感染症対策や健康な生活への関心を高めた。	B	・ 毎月の避難訓練の内容を工夫して実施し、「何の訓練なのか」を園児にも自覚できるように発達に応じた言葉がけをし、危機管理意識を育てるようにしていく。 ・ 事故報告書やヒヤリハット報告書等で、引き続き共有化を図り（チェックできるよう工夫し）、事故後の対応について考察を行い、事故防止に繋げていく。 ・ 欠席園児が増加する時期を見逃さず、保健だよりやよい子ネット（病欠・出停状況の発信）を活用し、保護者への感染拡大防止・感染予防意識の向上に繋げていく。 ・ 各部屋や園庭・屋外プールに設置した防犯カメラや、電子錠の導入により、重大事故や不審者侵入防止対策を強化する。
特別支援 教育・保育	○一人ひとりの特性や発達課題に応じた支援計画の作成と実施 ○専門機関、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	○特別支援コーディネーターを中心に、担任・加配担当との連携を図りながら、個々の園児にあった支援の方法を探った。 ○療育施設をはじめ、専門機関との連携を図った。 ・支援の必要な園児と一緒に専門機関に出向き、支援の方法を探った。 ・面談の中で保護者の思いを聞き取り、小学校の特別支援コーディネーターや関係機関に繋ぐことで、安心して進級や就学ができるようにした。 ・医療的ケアが必要な園児についても、看護師・保育教諭・主治医・関係機関との連携を密にした。	B	・ 特別支援の必要な園児には、個別計画を作成し、そのことを共有する場も今年度並みに設定し、必要な支援に努めていく。 ・ 健康課巡回相談や支援センター職員、療育施設職員等との連携を継続し、日ごろの教育・保育の質を高めていく。 ・ 小学校の特別支援CO.や園小接続推進担当、関係機関（アフタースクール職員）との打ち合わせを通して、子ども理解を大切につないでいく。
家庭・地域　他校種との連携	○信頼される園作り ・情報の発信・受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○地域とのつながり	○個人情報に留意しながら、情報発信に努めた。 ・一人ひとりの園児に対し、みとったことを送迎の際の面談や連絡帳で知らせた。 ・園だより・クラスだより・給食献立予定表・保健だより、また、HPやよい子ネットを活用して、取組の意図や子どもの姿を具体的に発信した。【2月末現在で363件（←416）の発信、内160件（←132）の限定配信】 ○参観日・給食試食会（4歳児）を開催した。 ・具体的な子どもの姿等を通して、園の教育・保育、給食への理解をしてもらう機会とした。 ○園小連携 ・新たに東小との「架け橋期カリキュラム」（←プログラム）を検討し、作成した。 ・長期休暇を活用した東小職員の訪問や、1年生授業参観、園小連携会議を実施し、アフタースクール職員、東小全職員と、子ども理解をテーマに8月2月の2回合同で研修した。 ○地域交流 ・地域の方を「○○先生」として迎え、サツマイモ苗植えや収穫などの体験活動の充実を図った。 ・園児たちの山登りや探検活動など裏山の活用を推進し、「モクモクピンゴ体験活動」を県立年輪の里との連携で実施できた。 ・地域の小規模保育所との交流を学期に1回程度でき、調理室の保健衛生の面でも交流することができた。	B	・ 子どもの姿から学ぶだけでなく、保護者の声からも学ぶ体制を整え（中間評価について、保護者会役員と意見交流を行う。）、家庭と園との相互理解を図る。中間評価で振り返ったことを年度末評価に生かす。 ・ 子どもたちの「生の姿」を目にする機会を増やすために、天候気候状況と判断しながら、保護者参観のあり方を工夫したり、保護者同士の交流も考えながら、制限人数の拡大を図っていく。 ・ 一つひとつの行事（前:前回の反省を踏まえる、後:感想や意見の収集方法をマニュアル化する）を終えた後、反省点をまとめ、振り返ることを継続実施し、次に向けての改善等を検討していく。 ・ 計画的な「園小連絡会」を持ち、職員の相互参観、動画活用によるオンライン交流等、定例化した事業を継続し、子どもの変容を中心に教育・保育のあり方を検証していく。 ・ 地域・保護者の方を「先生」として継続して招聘し、体験活動の質を向上させ、つながりを充実させていく。 ・ 「柏原の郷」「小規模保育所」との交流について、在り方や内容の検討を加えながらも継続し、今後も取り組んでいきたい。 ・ 月例で自治振興会長をはじめ福祉会役員の訪問を受け、保育参観も含め、本園の取組や子どもの様子を地域の方々に知っていただく機会としていきたい。 ・ 裏山活用を兼ねた「モクモクピンゴ大会」を工夫して実施する。

こども園関係者評価（こども園関係者評価委員より）

・ 保護者に安心感を与える園経営や教育・保育に取り組まれているため、近年、職員の異動が多いにもかかわらず、アンケート結果に大きな変化が無いので安心した。
・ 年々、日々忙しい中、子どもたちに精いっぱい尽くしてもらっていることに対し、感謝でいっぱいである。
・ 本園で大きな感染症が流行らなかったのは、家庭の協力はもとより、園からの情報発信や感染症対策がしっかりできていたためだと考える。
・ 裏山や高谷川沿い堤防など環境を活かし計画的な取組が行われ、「やらされる発表会」でなく「自分たちでやる発表会」という子どもの姿を感じた。
・ 「保護者からの登降園に関する連絡」や「職員の写真整理作業の煩雑さ」等の対策として、アプリやICT、専用ソフトの導入を考えられたらどうか。
・ 「取り組み状況」や「改善の方策」の記入について、その年度のことはよく分かるが、昨年度との比較についても記入の工夫がほしい。
・ 「保護者アンケート項目」で答えにくい項目や、分かりにくい項目、達成できているような項目は、新たな項目に変更等をする必要がある。

こども園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について
・ 「子どもの姿に学び、保護者の声に学ぶ」姿勢を堅持し、日々目の前の子どもたちの保育・教育の質の向上に努める。
・ 年齢職種を問わず、「対話」を基本とし、お互いの心に寄り添い合える職員チームになるよう努める。
・ 園小連携はもとより、地域の方々や園を取り巻く自然環境とも積極的に関わり、よりよい園を目指す。

令和7年3月31日
園　名　認定こども園いくさと
園長名　安田　和仁　印